

日本映画放送株式会社 第56回番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成29年3月21日（火）15時～16時

2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階

日本映画放送株式会社 ボーディングルーム

3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 8名

出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・

曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：代表取締役社長

杉田 成道

常務取締役

佐藤 信彦

編成制作部長

澤 尚志

編成制作部

槌谷 昭人

番審担当

堤 靖芳

清水 明(記)

4. 議題（1）審議事項

日本映画専門チャンネル「タンポポ、ニューヨークへ行く」について

（2）報告事項

時代劇専門チャンネル「三屋清左衛門残日録」について

5. 議題（1）概要

日本映画専門チャンネルでは、2月18日(土)より伊丹十三監督作品全10作を放送するが、4年ぶりの放送に合わせてオリジナル番組『タンポポニューヨークへ行く』を製作した。昨年10月に映画『タンポポ』が30年ぶりにニューヨークで上映された折、舞台挨拶に臨んだ主演女優であり監督夫人でもある宮本信子の様子とともに、海外から見た伊丹作品の魅力と高評価の理由を検証する。演出は、『タンポポ』公開時に製作された「伊丹十三の『タンポポ』撮影日記」など、日本映画におけるメイキング映像の開拓者である浦谷年良。

【審議 POINT】

■放送する映画『タンポポ』の良いガイド番組となりえているか。

■番組は面白かったか。

■「総力特集 伊丹十三の映画」企画への興味を喚起する内容だったか。

6. 議題 (1) 審議内容

- 様々なアメリカ人が印象的な場面を挙げて意見を述べており、日米の視点の違いが明確になり、比較文化論的に興味深かった。字幕も的確で良かったと思う。久しぶりに伊丹映画をまとめて見ようという気になった。また、とにかくラーメンおいしそうで、初めて伊丹作品に触れる視聴者にとっても興味が持てる内容だ。
- 難しいことはまったくないオーソドックスなつくりで、心地よくなれる貴重な番組だ。この番組は伊丹映画を題材に、全編を通じて気持ちいい風が吹いてくる感覚になった。
- 日本人以上に多様な視点で映画をとらえ、その面白さをアメリカ人に教えられた思いだ。宮本信子が「伊丹はいつもせっかちで、早すぎるんです」と発言していたが、彼の先見性を再認識した。特集全体への期待感を高めたと言って良いだろう。
- 30年前に『タンポポ』を見た人がターゲットならば、作品の魅力が再発見できて面白いだろう。しかし、伊丹十三を知らない今の若者をターゲットとした時、良いガイドとなって、他の作品まで見たくなるかという点、そこは弱い気がする。
- アメリカで熱烈に支持されているのは初耳だった。大人向けの邦画コメディが珍しく思われたのだろうか。私は伊丹監督の低迷や最期、ラーメン名人役の大友柳太朗の映画直後の自殺を知っているので、『タンポポ』を見ると辛くなる。
- 映画には伊丹の知的好奇心や探究心が詰め込まれている。番組づくりは丁寧で楽しんだが、若い世代を引き込めたか、と問われれば確かに疑問だ。全10作のなかでオリジナル番組の題材を『タンポポ』にしたのは、ニューヨーク上映がきっかけだったのか？
- 30年前のアメリカではラーメンは異色で、非日常の食べ物だったはずで、日米での評価の違いは当然だと思う。テレビマンユニオンらしくテーマを絞り、宮本信子らの言葉でまとめた番組内容だったが、特集全体に良い波及効果があると思う。
- アメリカの方が日本人より作品を深く理解したのだと脱帽。好奇心旺盛で食のエッセイストでもあった彼の世界が上手く表現されている。黒澤、小津とは違う力が伊丹作品にあったのだとこの番組で気づかされた。これからの日本映画に対するヒントが『タンポポ』には隠されていると思う。審議ポイント3点全てを満たした良作だ。

〈事業者回答〉

- 伊丹特集が決定した頃、ニューヨークで30年ぶりに『タンポポ』が上映されると知り、番組の企画が始動した。日本では1月にTOHOシネマズ日劇で『タンポポ4Kデジタルリマスター版』の上映会を催し、SNSなどを通じて若い層にも伊丹作品をアピールしたが、番組自体は確かに若い世代へ届きにくかったかもしれない。
- 実は『タンポポ』は1ヶ月ぐらいの急ごしらえでつくった映画で、伊丹監督が好き勝手にやった珍しい作品。多彩なエピソードが詰め込まれ、いちばん伊丹らしい映画だと思う。

7. 議題(2)報告事項

時代小説の名手・藤沢周平の没後20年、生誕90年のメモリアルイヤーにあたる2017年の2月11日に、BSフジで、弊社と共同制作した北大路欣也主演「三屋清左衛門残日録 完結篇」が放送された。それに合わせ、時代劇専門チャンネルでは、その前篇である「三屋清左衛門残日録」を同日に放送した。昨年放送した藤沢新ドラマシリーズ4作品の好評を受けての番組制作だったが、本シリーズも両チャンネルで高視聴率を獲得した。時代劇専門チャンネルでは、この放送に合わせ、同じ2月に他の藤沢周平原作ドラマも多数放送した。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成29年5月16日(火)15時より開催。